

「ささしまライブ 24」(SL24)とは

名古屋駅の南には広大な敷地が広がっていた。旧国鉄の笹島貨物駅跡地である。名古屋市は、跡地を名古屋大都市圏の玄関口にふさわしい魅力と活気に満ちた街とすべく、1999年度に「ささしまライブ 24 (SL24) 土地区画整理事業」として再開発事業に着手。2017年10月、地区内の民間施設が全て開業し「まちびらき」を迎えた。

「一粒で三度おいしい」プロジェクト

「SL24の潤い空間演出と中川運河の浄化のために、至近にあり、全面改築される露橋水処理センターの高度処理水の利用が計画されました。そこでこの高度処理水の熱を利用し、経済性、省エネ性を高めた熱供給システムも実施することを計画しました」と説明するのは、名古屋都市エネルギー(株)DHCエネルギーセンターの吉田さんだ。現在、同社は電気、ガス、下水熱を組み合わせSL24内の愛知大、グローバルゲート、中京テレビの各建物に熱供給を行っている。つまりSL24では高度処理水のカスケード(多段)利用が行われている。これを見たある関係者は「熱、修景、水質浄化。一粒で三度おいしい事業ですね」と表現したそうだ。

露橋水処理センターの全面リニューアル

露橋水処理センターは、昭和8年に稼働した名古屋市で3番目に古い下水処理場である。2004年から全面改築工事が始まった。「下水処理場の全面的な改築更新は名古屋市にとって初めての試みでした。そのため汚水を他の水処理センターへ送水したり、雨水排水では既存の雨水ポンプ所を共用しながら、別のスペースに先行してポンプ所を建設し排水機能を確保するなど工夫しました」と名古屋市上下水道局技術本部下水道計画課の山田さんが説明する。その説明を伺いながら、真新しい地下の処理施設に入った。臭気対策がしっかり取られており、下水処理場特有の匂いはない。新しい露橋水処理センターでは嫌気無酸素好気法(A₂O法)による高度処理が行われているほか、雨天時の合流改善のために導入された簡易処理高度化施設も稼働している。「工事にあたっては地域との信頼関係の構築に力を入れました。騒音対策はもちろん、中川運河上に仮設橋を設置し工事車両の分散化を図るなどしました。また、近くに当局の工事担当部署の分室を設け、いつでも地域の方々とコミュニケーションが取れるようにしました」と山田さんは続ける。

中川運河に沿って歩く

露橋水処理センターをからSL24、そして名古屋駅を目指し歩く。15分ほどでSL24に。再生水の放流口へ向かった。ここは中川運河の一方の終点であり、かつては貨物の積み下ろしで賑わったが、今は運河を利用した水上交通の発着場となっている。12月なので運河沿いは寒いが、夏場は水面を伝っていい風が入ってきそう。すぐ向こうを新幹線が行き交う。「今名古屋は、リニア中央新幹線の開業を見据えた都心まちづくりを目指しています。SL24は名古屋駅周辺のまちづくり構想に含まれており、名古屋駅周辺でも様々な再開発や道路等の整備が進められ、大きく変貌しようとしています」という山田さんの話を思い出す。高度処理水のカスケード利用を「地の利、時の利」を活かして実現した名古屋の下水道。今度はリニア中央新幹線開業という機会を活かし、どんな展開を見せるのだろうか。



写真左から、SL24全景、露橋水処理センター全体パース(イメージ)、中川運河(左2点は名古屋市提供)